

## ナンゴクウラシマソウ群生見頃です 2025.4.27

阿武山鳥越峠にナンゴクウラシマソウ群生がある。

JR 七軒茶屋駅から鳥越峠に至る登山道は、阿武山へのクラシックルートだ。

近年、倒木に依る登山道が荒れていた為、1月から登山道整備を始めた。

ウラシマソウ群生を守るためにもある。砂防堰堤を登るところからが登山口になる。

石垣（昔の集落、畠の遺構）の中の道を登ると、ヒメコウゾの花が満開。



8月豪雨土石流後に大規模堰堤が整備された



登山口にナワシログミ・・甘い



登山口にコバノガマズミ

季節を変えて訪れると、思わぬ花や実に出会う。登山道沿いの斜面にヤブツバキの純林がある。ツバキロードと呼びたくなる。2月からこの頃まで赤い花が迎えてくれる。谷は大規模な土石流がそのまま残っていて痛ましいが、出来るだけ倒木を切除して歩き易くした。大きな段差に踏み石を加えたりもした。



石垣（昔の集落、畠の遺構）の縁にヒメコウゾの木が多い。

ヒメコウゾは和紙の原料になる。赤い実は食べられる。（まだ今の時期は花である）

石垣が消える頃から上部にウラシマソウ群生が始まる。鳥越峠から下降すると数分で

谷沿いにナンゴクウラシマソウが見られる。中腹では斜面に広がる群生が確認できる。

これほどの群生は見たことが無い。日が当たる斜面に花が出て、浦島太郎が釣り糸を垂れる様が見て取れる。テンナンショウの仲間であるが、名付けた人のセンスが良い。





ナンゴクウラシマソウの花（仏炎苞の中に花がある）

仏炎苞の中から細く長い糸状の組織が伸びて、釣り糸を垂れているように見える。

安佐岳友クラブ 大藤